

# Q&A

このコーナーでは、疾病や繁殖への質問、往診時には聞けなかったことや今更聞けないことなど、みなさんの疑問にNOSA I職員がお答えします。

今回は

標茶町磯分内 匿名希望さんより

『哺乳について、1日6ℓのミルクを飲ますとして、バケツ給与と乳首付バケツで飲ます場合、増体に違いはあるのでしょうか。その他、ガブ飲みさせると中耳炎になりやすいと聞いた事がありますが、その辺でも違いはありますか?』

この問いに弟子屈家畜診療所の茅先秀司獣医師が答えます!



お答えします。子牛の哺乳方法は大事なポイントですが軽視されがちですよ。

## バケツより乳首哺乳

一般的に、乳首付きの哺乳の方が、バケツからのガブ飲みより良いと言われています。乳首哺乳はゆっくり時間がかかるのが特長です。わざわざ乳首のゴムが硬くて、ミルクの出る穴が細い乳首まで販売されています(写真)。乳首哺乳には、以下のような良い点があります。

- ① ゆっくり飲むことで唾液の分泌が良くなります。唾液の量が増えれば、ミルクの消化が良くなり下痢も減ります。
- ② 誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)と鼓脹症(こちょうしょう)の予防になります。誤嚥性肺炎とは、肺にミルクが入り炎症を起こす病気です。鼓脹症とは、第四胃に入るはずのミルクが、第一胃に入り、ガスがたまる病気です。これらの病気は、急いでミルクを飲むことで、本来ミルクが入るべきでない場所に入ってしまう事で起こる病気です。
- ③ 子牛は母牛の乳首をくわえる事で、満足感が得られ、ストレスの軽減につながります。子牛は「口がさみしい」動物です。乳首をくわえる事で、消化の良くない乾草を無駄に口にする機会が少なくなります。



商品名イージーフィーダー：乳首のゴムは硬めで、噛む動作が多くなり、唾液の分泌が促進される。またV字型にミルクが出るため、頬にミルクが当たりワンクッションしてから飲み込むことになる。

## 中耳炎になる理由

質問にあった「バケツ哺乳では中耳炎が起こりやすい」というのは、場合によります。中耳炎の主な原因菌は、マイコプラズマという菌です。マイコプラズマにも種類があり、中耳炎を起こしやすい毒性の強いものがあり、この菌は子牛の鼻の穴の粘膜に付着しています。鼻と耳は喉の奥の細い管でつながっているのですが、バケツ哺乳で鼻から入ったミルクが、この菌を耳の内側へ押し流してしまうことで、中耳炎が発症しやすくなります。ただ、中耳炎を引き起こす毒性のあるマイコプラズマは、いる農場といない農場があります。哺乳子牛の預託(よたく)施設など、多くの農場の子牛が集まる施設で多発する傾向にあり、いない農場ではバケツ哺乳でも中耳炎は発生しません。

## 乳首哺乳とバケツ哺乳

乳首哺乳の悪い点を上げてみますと、まず時間と手間がかかる事でしょうか。一頭ずつ手で与えている農場では、大きな負担になってしまいます。また、ゴムの乳首は、細菌が増えやすい場所なので、洗浄も念入りにしなくてはなりません。

またバケツ哺乳でも上手に与えるコツがあります。まず一つ目に、新鮮な水を常時飲ませる事です。これにより、水は第一胃に入り、ミルクは第四胃に入る習慣が付きます。二つ目に、バケツでミルクを与える前に数秒間、指を吸わせてやる事です。そうする事で、第四胃へミルクが流れるように、第一胃にフタがされます(食道溝反射：しょくどうこうはんしゃ)。こういった哺乳のさせ方により、鼓脹症の発生が格段に少なくなります。

👉 つづく

## 子牛の増体

乳首の有り無しでの増体差についてですが、具体的な違いは報告されていません。むしろ増体には、ミルクの量と成分が大きく影響するようです。ただ経験上、乳首哺乳をしている農場の方が、前に書いたような病気が少なく、健康な子牛が多いと感じています。

**皆さんの疑問を  
大募集!!**

「Q & A」のコーナーでは皆さんの疑問を募集しております。応募ハガキまたは、FAXや電話等で直接お話しだけでも構いません。疾病や繁殖への質問、往診時には聞けなかったことや今更聞けないことなど、丁寧且つ簡潔にお答えします。是非お気軽にお寄せください！お待ちしております！